

呉の歴史

4. 軍縮期 大正11(1922)年～昭和11(1936)年

海軍軍縮条約

大正11(1922)年のワシントン海軍軍縮条約、続いて昭和5(1930)年のロンドン海軍軍縮条約の調印で、艦艇の建造が制限されました。

この頃は、どの国も軍備にお金をかけすぎて大変になったんじゃ。かと言って、自分の国だけお金をかけないと他の国との競争に負けてしまう。だから『みんなで軍備を少なくしましょう』という約束をしたんじゃ！この約束を①と

※国を守るため、また戦争をするための備え。



この軍縮期間のことを、海軍休日(ネイバルホリデー)と呼びました。

海軍の休日だって！

この間、工員さん達は何もせずにのんびり過ごしたのかな？



そんなことはないぞ！

持てる艦艇の数が制限されてしまったから、今度は質の高い艦艇を造ろうとしたんじゃ。建造技術を高める努力がされていたんじゃ！

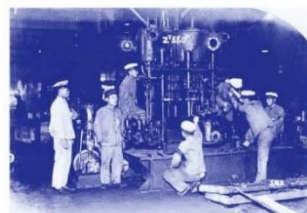


呉の歴史

技術の向上

海軍工廠では、効率よく作業ができるように「科学的管理方法」が導入され、電気溶接技術などの新しい技術を使った艦艇の建造や改装がおこなわれました。

また、工場内には技手養成所などの技術養成機関があり、優秀な人材の育成も図られました。



▲技手養成所の授業風景

②が導入され、建造工数が少なく、低コスト・工期の短縮につながったんじゃ。



失業者対策

呉では、軍縮により工廠の機能が縮小され、③が増えました。その対策として再就職のための職業紹介所が設立されたり、移住なども行われました。

呉海軍工廠を去った工員さんは、鳥取県西伯郡名和村(現在の大山町)に集団移住したのよ。今でも大山町と呉市は交流が続いているの！



▲海軍工廠退職移住者歓迎会(昭和6年)

鳥取県名和尋常高等小学校